



# 蓮田の桃の節句・端午の節句



かつて子供の生存率は低く、子供の無事な成長を神仏に願い感謝する行事が様々に行われてきました。

展示物をとおして、子供の誕生・成長を喜び祝うようすを、時代を追ってご紹介します。

## 【近世】…江戸時代

江戸時代より岩槻では人形作りが盛んでした。(詳しくは裏面をご覧ください。) 近隣の蓮田でも節句行事があったと思われませんが、資料がほとんどなく詳しいことは不明です。

安政2年(1855)の古文書には桃の節句・端午の節句に関する記述があり、子供の成長を祝ったことが推測されます。

## 【近代】…明治～昭和20年(1945)

こちら文書による資料がなく、確かなことはわかりませんが、展示館には市民より昭和初期の雛人形が寄贈されています。

展示の人形はそれぞれ昭和7年(1932)・昭和12年(1937)という箱書きがあり、いずれも初節句に親元や親しい知人から贈られた人形です。

### 昭和7年桃の節句



内裏雛

ごにんばやし  
五人囃子



第2次大戦中の平野の疎開保育園での桃の節句の写真(平成7年12月24日埼玉新聞)が掲載されました。厳しい状況の中でも節句をし、子供を思いやる大人の姿がうかがえます。

## 昭和12年端午の節句



桃太郎

菖蒲飾り  
(ちまき付)



こいのぼり  
鯉幟



あさひ  
旭のぼり

## 【現代】…戦後～現在

蓮田市の民俗行事について平成10年に調査が行われました。行事の実施状況は桃の節句68.5%・端午の節句41.8%でした。内容などは以下のような結果になりました。

	三月の節句	五月の節句
行事の呼称	桃の節句 ひなの節句 オヒナサマ 女の子の節句	菖蒲の節句 端午の節句 男の子の節句
実施日	三月三日	五月五日
行事内容	<p>女兒のいる家庭では雛人形を飾りお祝いをする。お祝いを頂いた家には草餅やアンピン餅を配った。</p> <p>※アンピン餅…塩餡入りの餅。現在では甘い餡入りのものもつられています。</p>	<p>男児のいる家庭では親元などから贈られた鯉幟・武者人形・破魔矢などを飾る。お祝いのお返しには柏餅を配った。疫病除けに蓬と菖蒲を屋根にかざる。菖蒲湯にはいる。</p>
行事食	雛あられ・甘酒・草餅・桜餅・アンピン餅・菱餅	柏餅・紅白餅・手打ちうどん

(月日は新暦に統一して記述)

なお、蓮田は昭和40年ごろから東京のベッドタウンとして発展し、今では他市町村より移り住んだ人々が人口の半分を占めるようになりました。個々の家では出身地の風習で節句が行われることも多く、行事食にちらし寿司・ハマグリ吸い物など、全国的な風習が広がっています。



# 桃の節句・端午の節句



## 《節句の由来》

「節句（節供とも書きます）」は季節の区切り、祝い日の供え物のことでしたが、しだいに祝い日自体を指すようになりました。特に陽数（奇数）が重なる日を選んで「五節句」とし、古来より季節の節目としてそれぞれ行事があります。

重陽の節句以外は現代でも広く知られています。

### 【ひなまつり・桃の節句】

「上巳」は中国からつたわり、平安時代に日本に取り入れた行事です。水辺で禊ぎ祓いをしたあと宴で祝いました。

また古来よりの紙の人形（形代）にケガレを移して川に流す慣わしと、京の貴族階級の子が、天皇の御所を模した御殿や飾り付けで遊んだ「雛遊び」がありました。

やがて武家社会でも節句行事が行われるようになり、江戸時代には人形遊びと節句が結び付き、現在のような行事に発展したといわれています。

紙の人形を川や海に流し災厄を祓い清める祭礼は現代でも「流し雛」として残っています。

## 五節句

じんじつ 人日	1月7日	この日の気候の具合によって、その年を占う。七草粥
じょうし 上巳	3月3日	陰暦三月最初の巳の日「桃の節句」
たんご 端午	5月5日	端は始めの意。「午」は「五」に通じる。
たなばた 七夕	7月7日	星を祭る年中行事。「七夕祭り」
ちゅうりゅう 重陽	9月9日	陽の数である9が重なる日。宮中では観菊の宴が行われる。「菊の節句」

### 【端午の節句】

こちらも古来中国から伝わり、奈良時代から続く古い行事です。虫除け・疫病除けに蓬や菖蒲を軒にさし、柏餅・粽を食べて家族の永続・健康を願いました。

やがて武士の行事に取り入れられ、近世以降は甲冑・武者人形を飾り、庭に錦旗や鯉幟を立てて、男子の成長を祝うようになりました。

戦後は「子供の日」となりました。

#### 参考文献

国史大辞典(吉川弘文館) 広辞苑(岩波書店)  
蓮田の年中行事と祭り(蓮田市教育委員会)

## 《岩槻の人形作りと蓮田》

蓮田の南に位置するさいたま市岩槻区は、江戸時代より人形の街として有名です。岩槻藩の一部でもあった蓮田と岩槻の関係は深く、現在でも蓮田に縁の方々が岩槻人形の伝統工芸士として活躍しています。

### 【岩槻人形作りの歴史】

約370年前、徳川家光の日光東照宮造営のため全国から集められた職人たちの一部が、江戸と日光を結ぶ「御成り街道」の宿場町であった岩槻に住みつき、その中に人形作りをするものがいたといわれています。

当時、岩槻周辺は桐の産地で、人形の原料である桐粉が入手しやすく、また消費地である江戸が近かったことなどから、人形作りは盛んになっていきました。

幕末には人形が岩槻藩の専売品に指定され、現在でも生産量・生産額ともに日本一となっており、経済産業省の「伝統的工芸品」に指定されています。

### 人形制作の作業風景（岩槻）



目をはめこんだ頭

頭作りには最も熟練の技が必要とされます。



めんそうがき かしら  
面相書の頭



きめこ にんぎょう  
木目込み人形(作業中)



内裏雛



いしろうぎにんぎょう  
衣装着人形作業風景